

## 実施第一日目の報告(七月七日)

さて、愛子ちゃんの家で、この“漢字遊び”について、やり方から注意に至るまで、よく説明してやって帰宅したのですが、間もなく次のような嬉しい手紙が届きました。

『拝啓、昨日はいろいろと御親切にお教え下さいまして、本当に有難うございました。(中略)さっそく、本日、“足”を教えましたところ、午前中に二セット、午後三セット、日曜日なので私がやりました。

四セット目の時、私が“足”のカードを見せると、私が読むよりも先に“あし”と読みました。五セット目も同じで、私が言うよりも先に“あし”と読みますので、家内と驚いています。

一日で一字覚えることができたことを、非常に喜んでいきます。毎日、どうしたものかと、夜も眠れない日が時々ありましたが、今日でそのことが吹き飛んで、元気が出てきました。

遅れているから、劣っているからと言って悲観せず、明日という日を信じて努力したいと思っています。(以下略)』

実は、私が訪問した七月六日までに、私の送った著書を頼りに、“目”と“手”とをすでに教えており、愛子ちゃんはこの二字が読めるようになっていたのです。しかし、七月六日の話し合いで、『書物を読んだだけでは、正しい指導の仕方はなかなか理解できない』ことがわかり、この種の本の書き方のむずかしいことを思い知らされました。

でも、一応本を読んでもらった上で説明した方が、よくわかりやすいということも感じました。ともあれ、七月七日の愛子ちゃんの漢字遊びは、第三日目の形で行なわれたわけで、しかもそれは順調に受け入れられたようです。

この手紙で特に注目して頂きたいことは、『かなは一年かかっても一字も覚えなかった愛子ちゃんが、漢字は一日で一字、確かに覚えらるる』という事実です。